

- 2月22日午前3時37分、増設雑固体廃棄物焼却建屋5階の廃棄物貯留ピットの火災報知器が動作し、監視カメラで現場付近を確認したところ、現場火元なしを確認していましたが、その後、水蒸気により現場確認ができなくなったため、同日午前5時58分に消防へ通報しています。火災報知器の作動によって停止していた排気設備の復旧は、2月22日午後4時8分より開始し、同日午後8時9分に復旧作業を終了しました。
- その後、廃棄物貯留ピットに滞留していた水蒸気の排気を継続的に実施しましたが、視認性が確保できる状況まで水蒸気の滞留が解消に至らなかったため、より安全を考慮し2月23日午前0時40分にピット内へ注水を開始しました。
- 2月24日午後2時47分、公設消防により「非火災」と判断されました。なお、廃棄物貯留ピット内に炎は確認されておらず、また、廃棄物貯留ピット近傍の温度に上昇は確認されておられません。
- 水蒸気の滞留は減少傾向にあるものの、視認性が十分確保されていない状況であるため、今後も排気を継続するとともに、現場状況を確認しながら必要に応じて注水の実施等を検討してまいります。
- なお、作業員の被ばくや周辺モニタリングポスト等への影響は確認されておられません。

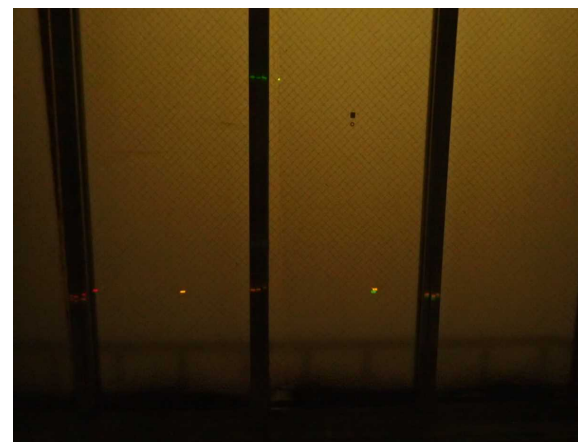
<2月26日までにお知らせ済み>

クレーン操作室からの様子



通常時

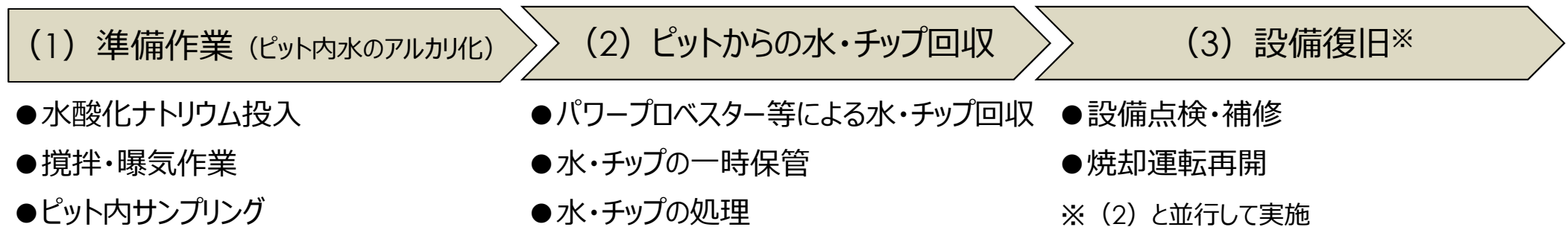
※窓ガラス内側の汚れで変色していると推定



現在（2/26 午後1時頃撮影）

廃棄物貯留ピットの状況と今後の作業ステップについて

- 3月7日現在、廃棄物貯留ピット内の水蒸気の滞留は無くなっており、視認性は改善されています。また、ピット内の水中部、気中部の温度は、それぞれ約18℃、約11℃で安定しています。
- 現在、ピット内の水やチップの回収に向けて、検討を進めており、早ければ明日（3月8日）より、準備作業として、酸性であるピット内の水のアルカリ化に着手します。今後の作業ステップの概略は以下の通りです。



- (1) 今後の作業（上記（2）、（3））に支障がでないよう、準備作業を行います。現在のピット内の水は酸性であり、嫌気発酵による硫化水素の発生抑制や躯体コンクリートの劣化を防止するため、ピット内の水のアルカリ化作業を行います。また、嫌気発酵を抑制するために攪拌・曝気（空気を送り込む）を行います。
- (2) サンプリングの結果、アルカリ化が完了した後、パワープロベスター等を用いて、水・チップを回収します。回収した水・チップはそれぞれ分離し、適切に一時保管・処理を行います（詳細については検討中）。
- (3) 設備復旧については、ピット内の水・チップの回収状況等を踏まえながら、設備点検を行い、必要に応じて補修を実施してまいります（詳細については検討中）。

【参考】 廃棄物貯留ピット内の状況など



廃棄物貯留ピット内の状況①（3月7日撮影）



廃棄物貯留ピット内の状況②（3月7日撮影）

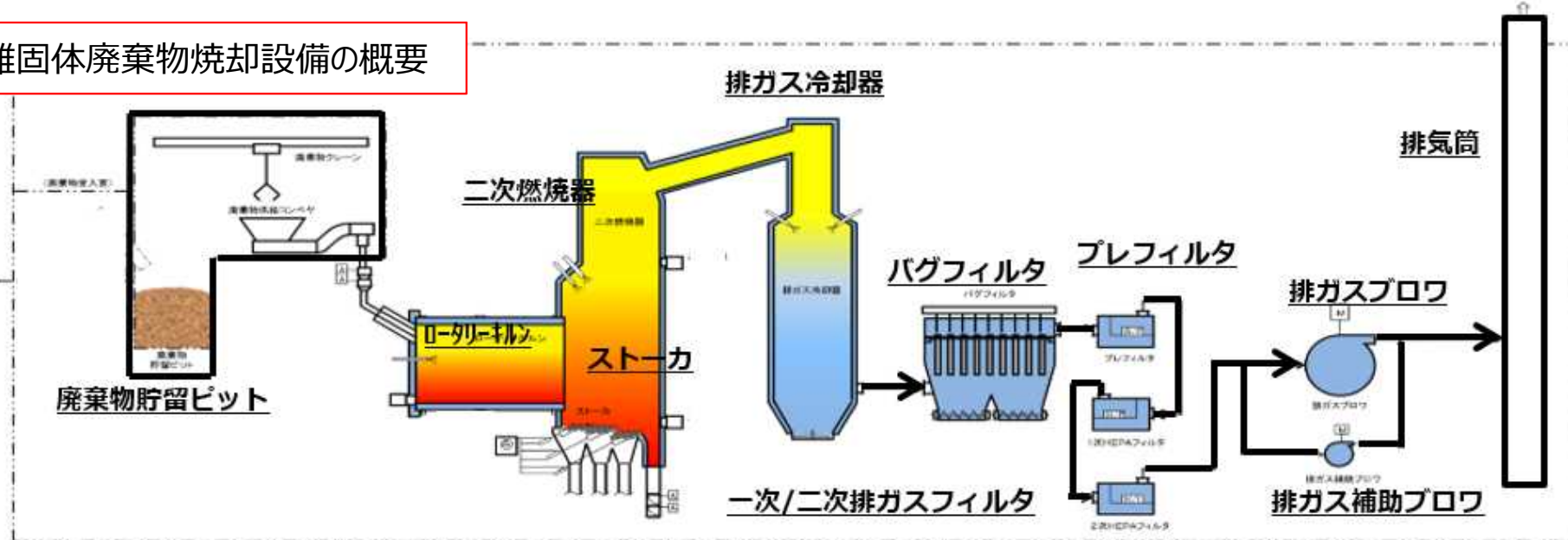


パワープロバスター

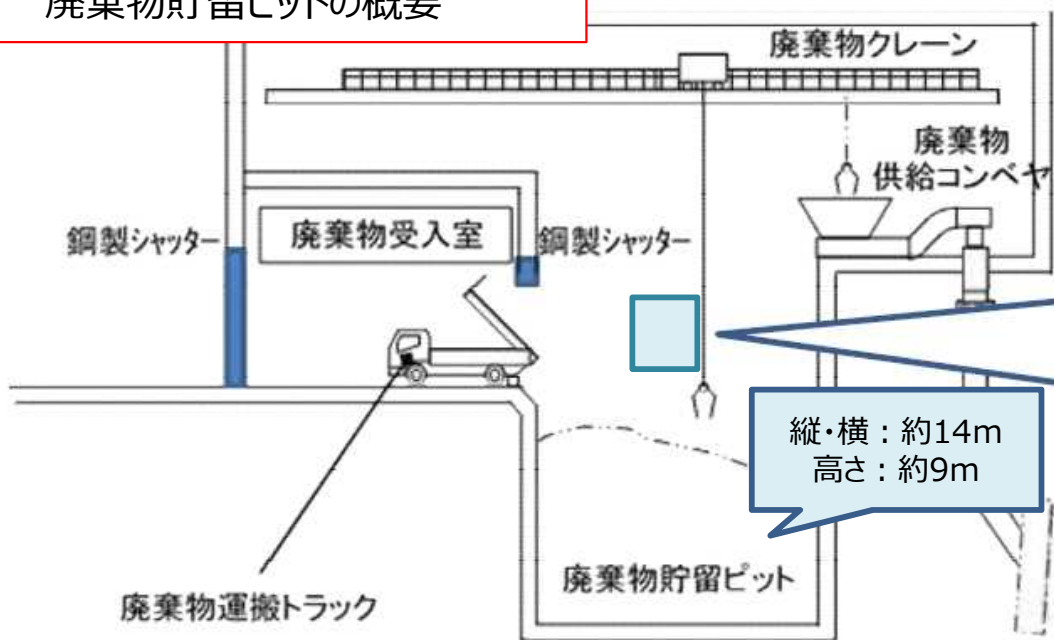
（出典：兼松エンジニアリング（株）カタログ
<https://www.kanematsu-eng.jp/catalog/psq13.pdf>）

【参考】増設雑固体廃棄物焼却設備 廃棄物貯留ピットの配置

増設雑固体廃棄物焼却設備の概要



廃棄物貯留ピットの概要



クレーンの操作室

